

祖母の言葉

須藤 真由美 福島県いわき市 五十九歳

私の祖母は花が大好きで、「花咲かババア」を自称していました。広い庭や畑の縁には、四季折々の花が植えられ、家族だけではなく道行く人たちの目を楽しませていました。

通りがかりの見知らぬ人から、

「きれいな花だごど。」

と、声をかけられると

「よがったら持つていがっせ。」

祖母の決まり文句です。花だけではなく、根が付いたまま持たせることもありました。

「ばあちゃん。いだましくねえの。」

せっかく丹精込めて咲かせた花を、いとも簡単に他人にやってしまうなんて……。すると祖母は言うのでした。

「花の好きな人に悪い人はいねえんだ。」

祖母から花をもらっていった人が、我が家にはない花を持つてくることもありました。こうして花を通して、人との絆を広げ、深めていく祖母の姿には感心させられました。

この言葉も印象に残っていますが、最も強く心に焼きついている言葉は、「辛いどぎには、花見で暮らせ。」です。あるとき、庭で草むしりをしていた祖母が遠くを見つめるような表情で、しみじみと言いました。

戦争で夫を亡くし、四人の子どもを抱えた祖父と再婚し、家事と農業に明け暮れた祖母の人生には、計り知れない苦労があったことでしょ。今では私を支える大切な言葉となっています。